

粟ヶ池大橋

粟ヶ池大橋は橋長190.0m、幅員16.0mの道路橋ではめずらしいRCラーメン構造(※)です。4径間と3径間の連続橋各2橋をRC単純スラブ橋5橋でつないでいます。橋脚はスリムなデザインを採用し、スレンダーで景観に優れています。粟ヶ池大橋の供用を記念し、ご利用の方々に愛着を持っていただきたい思いで「橋カード」を作製しました。

※RCラーメン構造とは

RC（鉄筋コンクリート）で作られた橋桁と橋脚を剛結し、一体化した構造です。



BRIDGE-DATA

所在地：大阪府富田林市粟ヶ池町
路線名：主要地方道 美原太子線
構造形式：RCラーメン橋
橋長：190.0m
幅員：16.0m
管理者：大阪府富田林土木事務所
完成年：2019年(令和元年)

ランダム情報

橋梁の高欄にLED照明を内蔵しており、交通安全性の確保や周辺環境等に配慮しています。

こだわり技術

道路橋ではめずらしいRCラーメン構造で4径間と3径間の連続橋各2橋をRC単純スラブ橋5橋でつないでいます。柱がスレンダーとなり、外観に優れています。

「アドプト・ライト・プログラム」(募集中)

「アドプト・ライト・プログラム」は、企業や地元に道路照明灯の維持管理に協力していただき、安全で安心なまちづくりを進めていく取り組みです。

このたび、粟ヶ池大橋につきましては、富田林商工会様、社会福祉法人朱音会（介護老人保健施設すずの音）様にご協賛をいただくことになりました。誠にありがとうございます。

企業さまにお願いすること

- ・照明灯の電気代を協力いただくこと（照明1本当たり2万円/年の協賛金）
- ・照明灯が消えていたら大阪府へ連絡いただくこと

協賛いただいた企業さまへの特典

- ・照明灯に企業名を掲載します
- ・大阪府HPへ企業名を掲出します
- ・希望により、企業HPへリンクします

協賛金の使途

安心・安全・快適な道路管理を進めるため、照明灯の電気代などに使います。

【大阪府市町灯番号】

光の回廊づくり
dopt light

「アドプト・ライト・プログラム」は、道路照明灯の維持管理に協力していただき、「企業や地元のみなさん」によって安全で安心なまちづくりを進めていくものです。

大阪府富田林土木事務所
TEL 0721-25-1131

わたしたちは、「安全で安心なまちづくり」を応援する「アドプト・ライト」に協力します。

協賛企業名称及び連絡先を記載

TEL: _____

(ご協賛の申し込みは上記までご連絡ください)

令和元年8月7日（水）供用開始！！

主要地方道美原太子線 粟ヶ池バイパス



大阪府富田林土木事務所

大阪府富田林土木事務所 〒584-0031 大阪府富田林市寿町2-6-1
TEL：0721-25-1131 HP：http://www.pref.osaka.lg.jp/tondo/

事業の概要

主要地方道美原太子線・粟ヶ池バイパスは、旧国道170号から国道170号（大阪外環状線）までの延長約400mの道路で、全幅16m、車道2車線、両側に自転車通行帯及び歩道を備えています。

このバイパスの供用により、南河内地域の東西の交通ネットワークが強化されるとともに、周辺道路の渋滞緩和による移動時間の縮減、交通事故防止などの安全性向上が期待されています。

なお、今回の供用では、近鉄長野線と踏切で交差することになりますが、現在進めている鉄道高架化工事の完成にあわせて同踏切は除却されます。

《周辺の渋滞状況》



(旧) 美原太子線の踏切付近 (古市8号踏切)

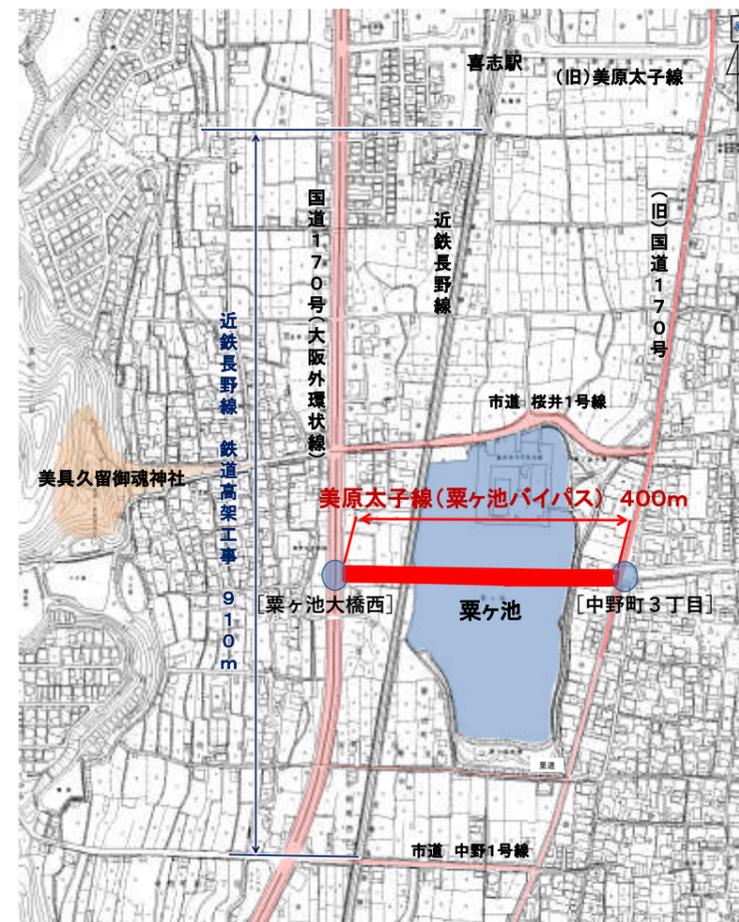


市道桜井1号線の踏切付近 (喜志2号踏切)

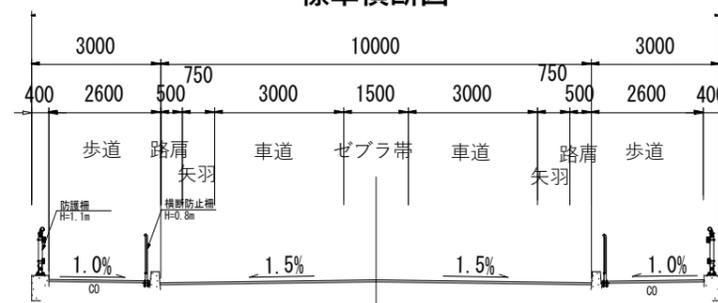
広域図



平面図・横断図



標準横断図



粟ヶ池

粟ヶ池は南北400m、東西200mの灌漑用の人工池で、日本書紀の仁徳天皇の条にある和邇（わに）池にあたると言われ、古くからあったことが想像されます。

平安時代後期には、周辺の耕作地は粟ヶ池の水を利用して多くの実りを得ていたと思われます。



富田林市市民会館



粟ヶ池周辺遊歩道

出典：富田林市HP（粟ヶ池の恵み）
<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/site/bunkazai/2696.html>

事業の経過

1997 (H9)

事業着手



2006 (H18)

工事着手



2008 (H20)

大阪府の財政再建に伴う事業一時休止



2014 (H26)

事業再開

2016 (H28)

用地買収完了
近鉄高架化工事着手

2018 (H30)

近鉄仮線切替え（下り線）



2019 (R1)

近鉄仮線切替え（上り線）

供用開始 (R1.8.7)



近鉄高架化完成予定



2020年代前半

(イメージパース)